

指標大型水鳥類に関する近年の動向

1. 大型水鳥類の今年度の全国的及び当該圏域の動き

コウノトリ

- 今年の野外の繁殖状況は、兵庫県豊岡市では8か所で14羽、兵庫県養父市で2羽、京都府京丹後市で2羽、島根県雲南市で野生復帰開始後では一つの巣で最多の4羽、徳島県鳴門市で2羽、計12か所で24羽が巣立った。

雲南市の一つの巣で4羽の育雛に成功したのは、野生復帰開始後では国内最多記録である。コウノトリの郷公園は「繁殖地が順調に拡大している」としている。

- コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル(IPPM-OWS)のホームページが開設。足環の色情報を入力すると個体を検索できるシステムなどがある。

<https://ippm-ows.jp>



雲南市大東に営巣する「げんき」と「ポンスニ」(2018年2月撮影)

ガン・ハクチョウ類

- 2019年1月に全国ガンカモ一斉調査が実施された。
- 斐伊川、神戸川流域では、マガンが2,182羽(前年比+768羽)、ヒンクイが178羽(前年比+1羽)、コハクチョウが1,359羽(前年比+619羽)、オオハクチョウが11羽(前年比+3羽)が記録された。



出雲市内の田んぼに飛来した
マガンの群れ
(2018年10月撮影)

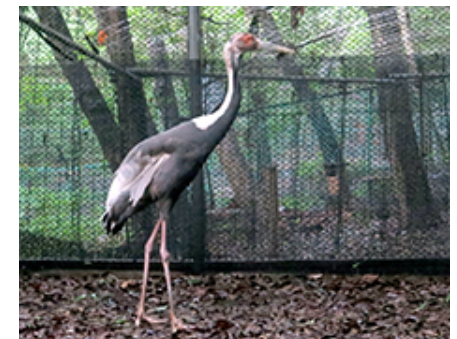
トキ

- 放鳥10年となる今季の繁殖は、77組が営巣、60羽が巣立った。冬からの厳しい気候のため抱卵中止などが相次ぎ、巣立ったトキは3年ぶりに減少。営巣したのは、過去最多となったが、抱卵中止やひな死亡により巣立ちに至ったのは27組にとどまった。野生下での生存数は今季巣立った幼鳥などを加えて、2018年7月時点で過去最多の361羽となった。
- 2018年8月18日に、新潟県長岡市でトキ公開施設「トキみ〜」がオープンした。
- 2018年12月中旬より約2週間、出雲市のトキ分散飼育センターにおいて、トキの一般公開が試験的に実施された。



マナヅル・ナベヅル

- 2017年に続き、2018年3月に、鹿児島県出水市の越冬ツルへのアクセスに規制をかける社会実験を、国、県、市、地元農業者、小中学生によるボランティアガイド等との協働で実施した。
- 2018年2月に、マナヅル9羽が、越冬のために安来市の能義平野の水田に飛来したが、このうち1羽が負傷し保護された。3か月半後回復したが野生復帰は困難と判断され、埼玉県こども動物自然公園で飼育されることになった。



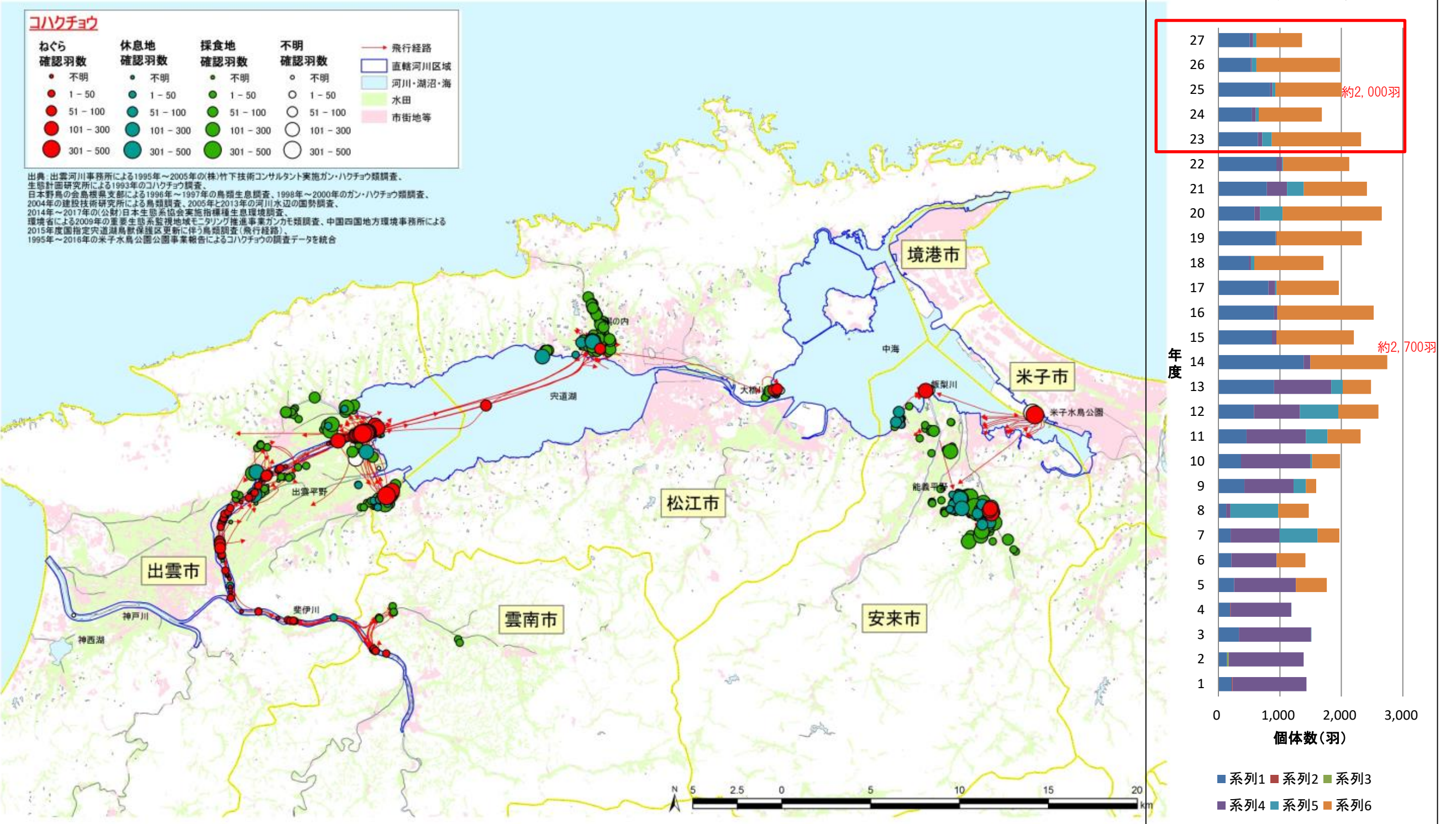
安来市で保護されたマナヅル
(埼玉県こども動物自然公園HPより)

その他

- 宍道湖グリーンパークは野鳥観察舎の全面改修工事のため、野鳥観察舎及びペンギンミュージアムを2019年4月中旬まで休館予定。自然観察会や自主イベントは休止しているが、園内散策は可能となっている。

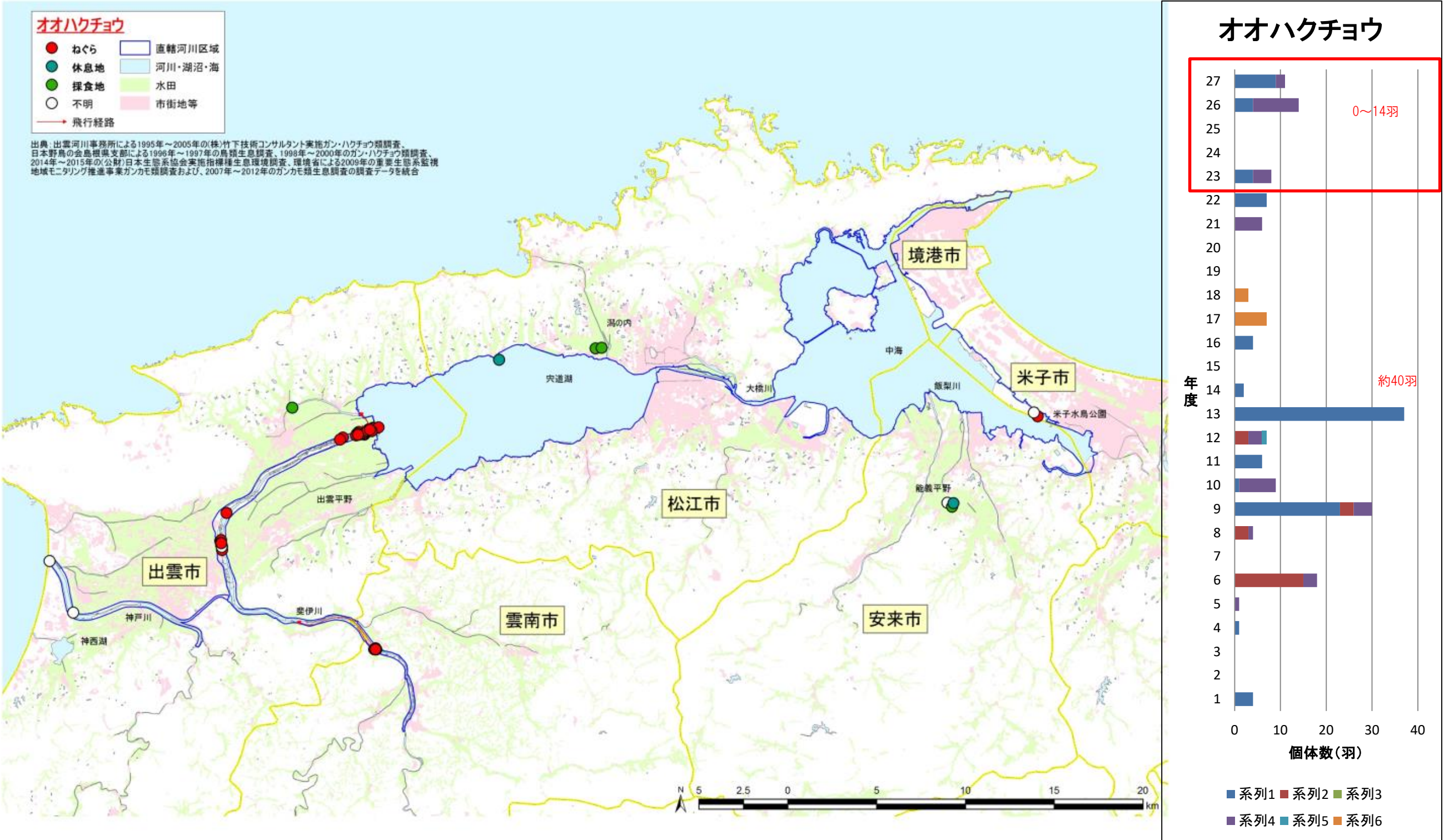
2. コハクチョウの近年における分布の概要

- ★ コハクチョウは2005年の約2,700羽の飛来をピークに近年は約2,000羽前後が飛来。2018年度は、1,359羽が確認されている。
- ★ 西部では斐伊川本川を主にねぐらとし、斐伊川周辺、潟の内を採食地として利用している。
- ★ 東部では米子水鳥公園や安来市宇賀荘水田を主なねぐらとし、能義平野を主な採食地としている。



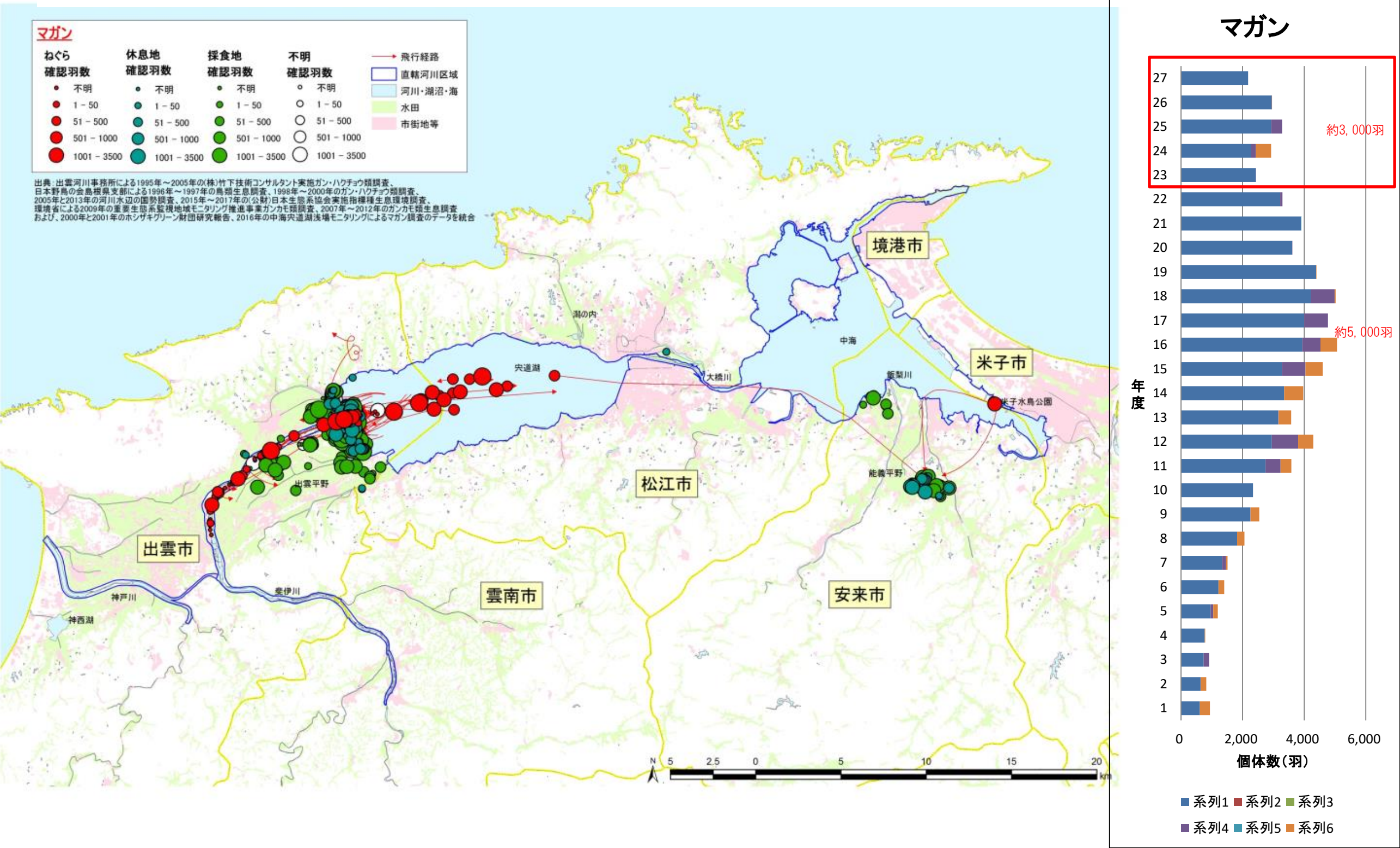
3. オオハクチョウの近年における分布の概要

- ★オオハクチョウはまれに飛来が確認されており、2018年度は12羽確認されている。
- ★斐伊川本川や米子水鳥公園をねぐらとして利用している。
- ★採食地としては潟の内や能義平野を利用している。



4. マガンの近年における分布の概要

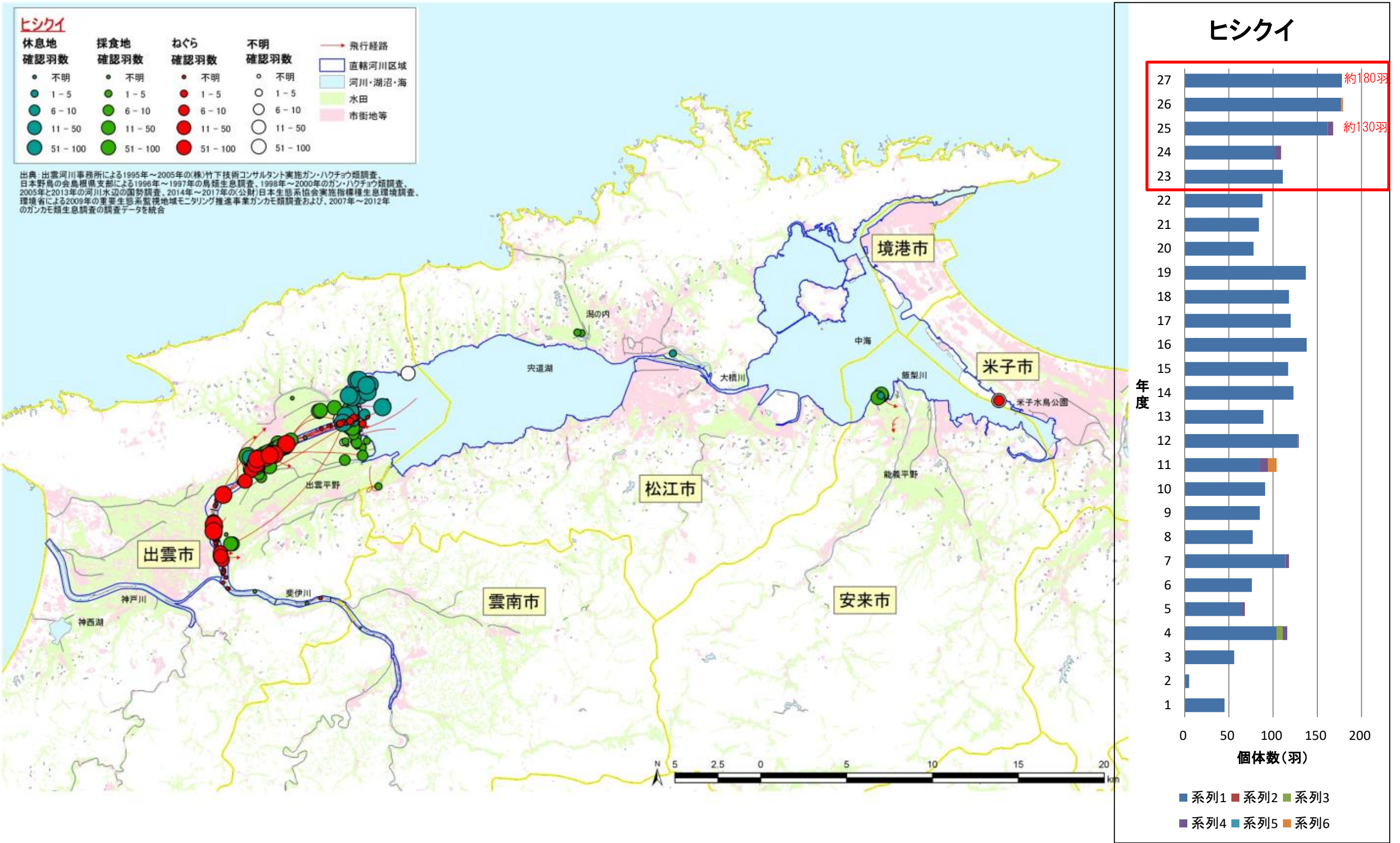
- ★マガンは2007年の約5,000羽の飛来をピークに近年は約3,000羽前後が飛来。2018年度は、2,182羽が確認されている。
- ★主な生息地は、斐伊川河口・宍道湖西岸・能義平野・米子水鳥公園。
- ★宍道湖湖心の湖面を主要なねぐらとしている。



5. ヒシクイの近年における分布の概要

★ヒシクイは、近年は約130羽前後が飛来。2018年度は178羽が確認されている。

★主な生息地は、斐伊川本川・宍道湖西岸。

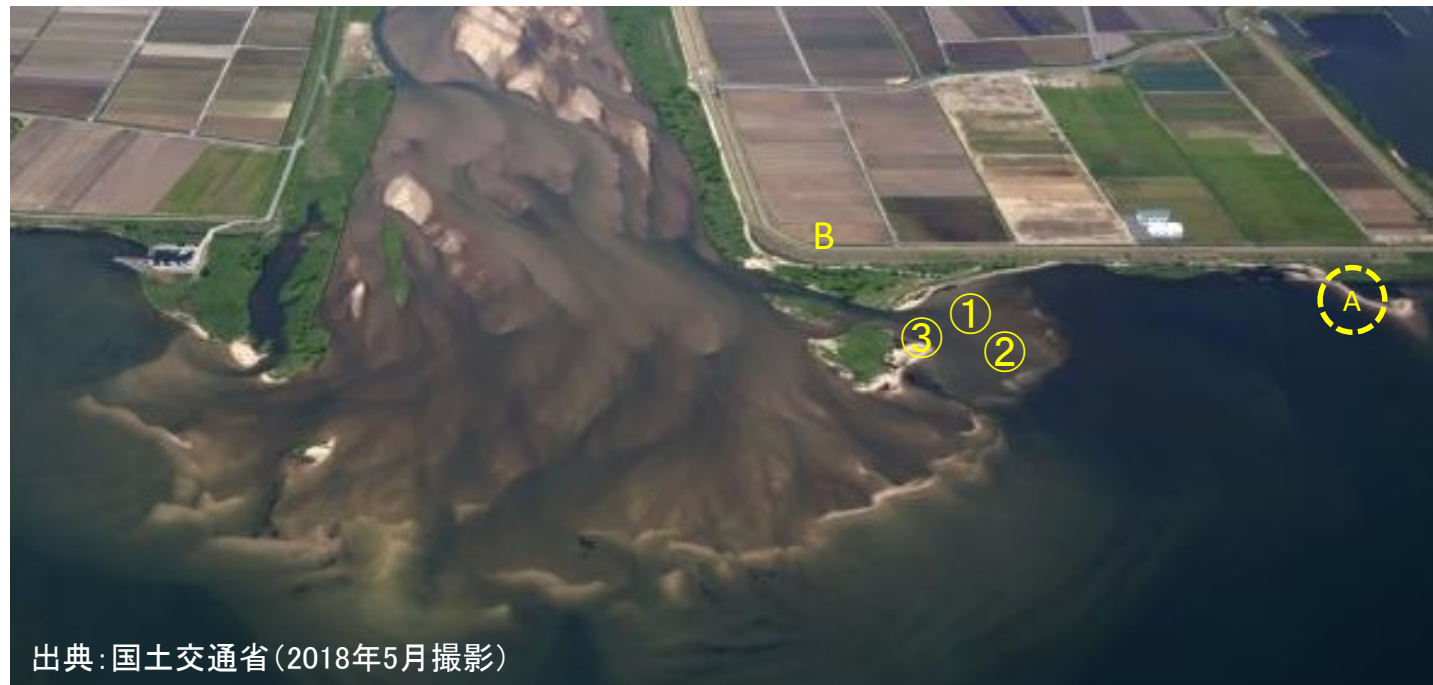


補足:「斐伊川河口左岸出島地先」におけるコハクチョウのねぐら利用

- ★ 2017年度に土砂を0.9万m³投入し、河口左岸の砂嘴を一部溝状に除去したところ、投入土砂、および本川からの土砂が出島地先に堆積。
- ★ 2018年11月・12月に最大71羽のコハクチョウのねぐら利用を①、②付近で、2019年1月には65羽ヒシクイのねぐら利用を③付近で確認。



2017年6月、下図(A)付近に土砂を約0.9万m³投入
左岸の砂嘴の一部を溝状に除去(B)



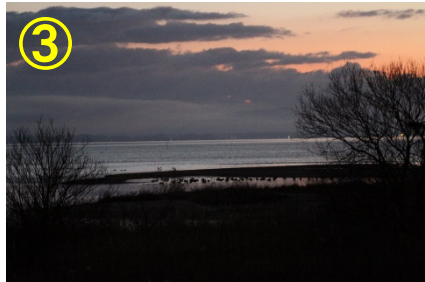
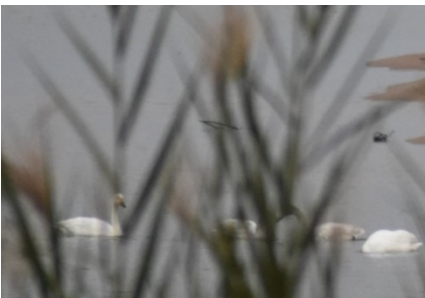
工事から約1年後。投入土砂の堆積が見られるとともに(A)、本川から流れてきた土砂が掘った溝(B)を通じて出島地先に広がり堆積している。



2018年11月3日 17:30 コハクチョウ 71羽



2018年12月20日 07:32 コハクチョウ 4羽



2019年01月13日 06:46(左写真) 07:10(右写真)
ヒシクイ 65羽



情報提供: ホシザキ野生生物研究所(ヒシクイのねぐら利用に関する情報、および写真)

6. ツル類(マナヅル、ナベヅル)の飛来状況

★ガン類などくらべて数は多くないが、宍道湖西岸、潟の内、能義平野などで確認されている。
★2018年1月、2月には松江市・安来市で9羽のマナヅルと1羽のナベヅルが、同年12月、翌年1月には1羽のナベヅルが確認されている。



7. コウノトリの飛来・確認状況

★兵庫県豊岡市等で継続している野生復帰事業による、野外放鳥個体が斐伊川水系にも飛来。調査などによる目撃の頻度は増加傾向。
★2017年に雲南市で営巣・繁殖行動が確認され、同場所において2018年にも営巣・繁殖し4羽の雛が巣立った。

